



汐鳴り 二宮中学校学校だより

令和元年度
No. 3
発行：松本雅志

○汐鳴祭体育の部が行われました

素晴らしい晴天に恵まれた5月25日の土曜日。令和初の汐鳴祭体育の部が行われました。今年は10連休の影響もあり、学校行事のスケジュールも忙しい中、生徒たちは毎日真剣に練習に取り組みました。

二宮中学校の生徒たちの素晴らしいのは、行事などでも先生任せにするのではなく、自主的に判断し、行動することができる点です。汐鳴祭では、各学年が3色（水色・オレンジ・ピンク）に分かれて競い合いますが、それぞれの色をまとめる際にも、3年生がリーダーとなり下級生を引っ張っていきます。それぞれの色では色別集会や色別給食などを実施して、連帯感を強め本番に臨みました。

開会式は、生徒会本部や体育委員会が自主的に運営し、緊張感の中にも和やかな雰囲気も感じられる、体育の部のスタートにふさわしいものでした。二人三脚スウェーデンリレーから始まった競技は、ムカデ競争、障害物走などの個人種目と、各学年単位での学年種目があり、どの競技でも真剣に取り組み、最後まで諦めずに全力疾走する生徒の姿が見られました。特に、1年生ハリケーン、2年生ボール運び、3年生綱引きと特色のある学年種目では、クラスの威信をかけた戦いが繰り広げられ、各クラスの担任の応援のボルテージも最高潮でした。

午後の競技は、クラス全員リレー、色別種目の大玉送り、男女混合の選抜リレー、そしてみんなでジャンプとクラスの団結が求められる種目が中心となりました。クラス全員リレーはどの学年も抜きつ抜かれつの接戦を演じ、見ている観客のみなさんも大興奮でした。

最後の種目のみんなでジャンプでは、練習の成果が発揮されたクラス、本番で思うように結果が出なかったクラスと様々でしたが、一生懸命に声を枯らして頑張る姿に感動を覚えました。

全ての競技が終了した後の閉会式では、各学年と色別の成績が発表されました。特に3年生は緊張してその瞬間を祈るように待っている生徒も多くみられました。そして、いよいよ発表の時、3位から順番に発表されると、落胆の溜息と1位になったクラスの歓声が校庭に響き渡りました。

体育的な行事には勝ち負けがつきものです。しかし、大切なことは結果ではなく、クラスや色別のグループで練習したり、絆を深めたことです。この汐鳴祭体育の部で培ったものを今後の学校生活にぜひ役立ててほしいと思います。

汐鳴祭体育の部



◎学校運営協議会が開かれました

5月28日(火)令和元年度第1回の学校運営協議会が本校校長室で開かれました。

今年度より、本格的にコミュニティスクールに移行することに伴い、昨年度までの学校評議員制度が学校運営協議会となり、メンバーも地区長さんを始め、青少年補導員さんや心泉学園の主任保育士さん、社会教育委員さん、元横浜の小中学校長など地域で活躍する方々が学校の運営について協議するとともに、今後保護者、地域、学校が生徒の健全育成について歩調を揃えて進めるように話し合いを進めていきます。

話し合いの内容としては、第1点目に学校の「防災・安全」に関する話題が出ました。中学生は地域防災の主役として活躍できる力を持っているので、避難所開設訓練などの実施も含め、地域の避難訓練の充実を図る必要がある。反面、小学生は見守りがなされているが、中学生については、地域でも見守りを行うことはなく、中学生という年代の難しさも指摘されました。

次に中学生の「学習・地域貢献」などについて、話題が移りました。

地域によっては、高齢者の方々の交流の場が持たれており、地区の防災訓練に中学生が多数参加しているところもある。しかし、地域の人にとっては中学校に足を踏み入れることや中学生と気軽に交流するにはまだハードルが高いと考えている人が多いこともわかりました。

これからは、ボランティアの活用を考え、地域で眠っている人材の掘り起こしをする必要があるなどの意見が出されました。

また、地域に開かれた学校として、授業参観に気軽に来ていただける工夫なども、学校だけでなく二宮町全体で取り組む必要があるなどの指摘もなされました。

今後は、学校の教育活動をより地域の方々にお示しすると同時に、具体的な内容として協力して頂けるように連携を図っていきたいと思います。また、地域に開かれた学校として、行事だけではなく、気軽に足を運んでいただけるような方策を考えていきたいと思います。

報道でもご承知の通り、二宮町の小中学校は今後、小中一貫校として連携を図りながらカリキュラムを一本化し、9年間の育ちを支えていく方向性です。9年間の子どもの変化は大変大きいものがあります。小学校の高学年の段階では教科担任制の導入なども検討されています。

それ以上に大切なのは、地域や保護者と触れ合い、多様な考え方・生き方に触れることだと思います。社会の情報化・国際化がますます進み、今までとは比べ物にならないスピードで社会が変化していく時、変わらないものとして、人と人との関わりやコミュニケーション能力を養うのは、学校や家庭、地域でしかありえません。

今年度は、全部で4回の学校運営協議会の開催を予定しています。今年度からの取り組みで始められることは多くはないと思いますが、まずは小さな一歩から「地域の学校」としてより親しんでいただける方向を目指していきたいと考えます。

◎PTAによる見守り活動

5月末より、PTAの保護者の方々による、放課後の見守り活動が始まっています。具体的には部活動終了前後の17時50分より18時10分くらいまで、二宮中学校の校門付近で子どもたちの下校の見守りを行っていただいています。毎回、4名から6名ほどの保護者の方が参加して下さり、生徒たちにあいさつをしながら、交通指導をしています。

二宮中学校の前の車道は、道が細く車が行違う際にぎりぎりになってしまいます。あわせて、車の通行も意外に多く、生徒たちの登下校時にはかなりの車が通行しています。近年、登校中の児童・生徒の列に車が突っ込み、大きな事故になった例が全国のあちらこちらでニュースとなっています。少しでもそうした危険から生徒を遠ざけるため、PTAの協力について感謝しています。

